

町づくりの提案

二の年間自律神経の病気を抱えて生きる私は、毎日体の症状で悩まされ、病院に行っても特に治療法もなく薬でも治りません。じつとしていても改善しないので、思いきって仕事に行くのをやめ、体調わるくなるを繰り返してはやめる、クビになるの繰り返しでした。

こんな自分に自分の価値を見出せず、とりたてて才能もない私は、何をどうしていいかわからない状態でした。これからどう生きるにいいのだろうか。不安だけが暮り、社会に対してでも恐怖感がありました。このままでは社会からも疎外され残り残されてしまう。自分とは劣っている何も出来ないダメな人間と思うと自分を追いこむ一方でした。

こんな自分でも、何か人の役にたてないだろうか。同じ苦しみをむっ人を救うことは出

来ないのだろうか。そこで考えたのが、行き場のない人たちが足を運べる場所、人の集える場所です。世の中には同じような病の人がたくさんいて、同じような思いを重ねているかもしれない。年間何万人と命を絶つ人、自殺者の減少になると思うのです。誰かに相談したくても親身に話を聞いてくれる人がいない、あるいは同じ病の人にしかわからない症状や悩みがあると思います。

そこでは、お互いの話を聞いて励ましあったり、年代や年齢を越えて語らいをしたらどうでしょう。年代の上の人には、生きる知恵を散えてもらい、また迷に寂しさを粉らしてあげるのです。悲観的になって出会える人にも出会えず死んでいくより意義があると思います。

更にそこでは共にコースをしたり芸術という共通の趣味で生きがいを見つけます。時には、体がよくなるために自分かしてあげようか、たということを教えあったりします。

農家の人が野菜を作り過ぎて捨て場がなく、山へ捨てている人も見かけます。せつかく苦勞して作った野菜を捨てなくてもこういう集いの家へ持ってきてたら野菜も無駄にならず皆からも喜ばれます。

自分のことばかり考えて生きず人と共存して生きる。ちよつと隣は知らない人無関心や無感動、犯罪も心の寂しさや貧しさから生まれるのではないでしょう。うか、もしそうならは犯罪や自殺者のないまちや社会を私達一人一人へ協力して作っていかねばなりません。明るく^{風木}しい町、助けあい生きる希望のわくような町づくりの提案です。